

本選集の特色

古代語、江戸・東京語、方言、女ことば、異体字・宛字、翻訳語・学術用語、辞典・事典史、本草学、蘭学、英学など、広範多岐に亘る著者の業績を網羅し、全十巻に収めた。

主たる研究対象ごとに巻を分け、研究の全容を概観できるようにつとめるとともに、最終巻には総索引・総目次を付し、国語学・言語学・諸外国語学・書誌学・洋学史・蘭学史・東西言語交渉史・女性史など、関連各分野からの参照の便をはかった。

各種の書誌的資料をはじめ、著者の作成にかかるとくに重要な文献資料については、著者架蔵本を中心に、その全編もしくは一部を各巻末に影印で収録した。

各種の書誌的資料をはじめ、著者の作成にかかるとくに重要な文献資料については、著者架蔵本を中心に、その全編もしくは一部を各巻末に影印で収録した。

杉本つとむ（すぎもと・つとむ）

1927年横浜生まれ。1951年早稲田大学文学部国文科卒業。1969年文学博士号取得（東北大学）。現在、早稲田大学名誉教授。

1969年オーストラリア国立大学東洋学部招聘教授。1984年モスクワ大学招聘教授及びオランダ・ライデン国立大学、国立民俗学博物館研究員。1989年国際交流基金（外務省）派遣、北京日本学研究中心講師などを歴任。

『近代日本語の成立』、『江戸時代 蘭語学の成立とその展開』（全5巻）『小野蘭山 本草綱目啓蒙 本文・研究・索引』『異体字研究資料集成』（全20巻）など著書・編著書多数。

日本言語学会・日本翻訳家協会・日本近世文学会所属。第19回日本翻訳文化賞（『江戸時代 翻訳日本語辞典』）受賞（1982年）。

杉本つとむ著作選集

菊判・上製・函入り 本文9ポ1段組み 各巻約520～640頁

第一巻	日本語の歴史	13,000円
第二巻	近代日本語の成立と発展	13,000円
第三巻	日本語研究の歴史	15,000円
第四巻	増訂日本翻訳語史の研究	13,000円
第五巻	日本文字史の研究	13,000円
第六巻	辞書・事典の研究	15,000円
第七巻	辞書・事典の研究	15,000円
第八巻	日本英語文化史の研究	15,000円
第九巻	西欧文化受容の諸相	15,000円
第十巻	西洋人の日本語研究	18,000円

価格は本体価格（税別）です

（分売可）

注文書

ご注文の際は、下欄にご記入の上、お近くの書店にお申し込み下さい。

ご住所 〒 -

印をご記入下さい

全巻

上記のうち

第()巻

お電話

お名前

書店印

八坂書房

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町1-4-11

電話 03-3293-7975 振替 00150-8-33915

杉本日本語学の全貌を伝える選集
ここに堂々の完結！

杉本つとむ著作選集 全十巻完結

八坂書房

この半世紀、ほぼ五十年の長きに亘って日本語研究に尽されてきた杉本つとむ博士の業績を全十巻に収めてここに『杉本つとむ著作選集』として刊行する。

博士の研究の対象は古代語から現代の流行語に至るすべての時代におよび、その分野は言語学、言語史、文字史、文体史、言語研究史、事典史、語彙、民俗誌などを含み、その主なる対象は古代語、江戸・東京語、上方・関東方言、女ことば、異体字・宛字、翻訳語・学術用語、現代日本語、蘭学史・英学史、東西学術交流史からの日本語研究など、広範多岐にわたっている。

杉本博士の諸論の要諦は、極めて豊富な文献資料に基づく実証的な研究であり、しかも明解な論理に裏打ちされた真摯・直截な論述の展開によって際立っているといえよう。とくに内外諸文献を駆使しての近代日本語の成立および日本語文字の変遷についての資料的研究は他の追随を許さないものである。

旧年、博士は古稀を迎えられ、早稲田大学を退官されたが、以後も愈々旺盛な研究が続けられ、その成果を次々に発表されている。現在までに発表された論文は五百篇を優にこえ、刊行された書籍は編著・解題も含めれば百五十冊をこえている。本著作選集

十巻に収録しうるのはその三割にも満たないものであるが、しかし主要かつ基本的な論文は収録して、博士の幅広い研究の全容とその核心はお伝えできるものと信じている。

本著作選集は、各巻に掲げた表題のもとに諸論文の中から選んで再編し刊行するものであるが、著者自らも「日本語研究の手引乃至は捨て石となるよう」と述べているように、収録論文を選ぶに際して、基礎的な論考・具体的な研究と問題提起・文献研究の重要性とその方法などを主軸にして考えた。また若干の資料を研究の必要性に応じて影印または翻刻によって併収した。

それぞれの論文は収録するに当り、改めて著者による改訂・増補がほどこされ、中には殆ど新稿に近くなった論文もある。また本選集のために新たに書き下されたところも多い。

本著作選集の刊行によって、著者自身も希望することく、現代日本語の乱脈の中から美しい日本語の姿を再認識する手がかりとなり、今後の若い学究による日本語研究のための指針ともなり得れば望外の喜びである。

読者諸氏の暖かい支援を切にお願いいたします。

刊行の辞

杉本つとむ著作選集 全十巻

第一巻 日本語の歴史

- 独自の時代区分による、画期的な日本語通史

多岐に亘る研究成果を背景に、音韻・語彙・文体・文字・方言・文化史的背景などの諸要素を視野に入れ、古代語から現代流行語までの日本語の史的展開を、る新しい通史記述の試み。

- 第一章 古代の日本語
- 第二章 古代語から近代語へ
- 第三章 近代日本語の成立と展開
- 第四章 近代日本語の諸相
- 第五章 江戸語の成立
- 第六章 転換期の日本語
- 第七章 現代日本語の成立

付録

『布令新聞字引』（抄録、影印）

『必携新聞字引』（抄録、影印）

第二巻 近代日本語の成立と発展

- 女ことばと近代学術用語、翻訳文体の研究

中世から現代に至る女ことば・女の名についての論考と、洋学関連の研究のうち、物理・化学用語の創訳過程・翻訳リアル体の発生と展開等、用語・文体をめぐる論考を集成

第部 女性語とその史的展開

- 第一章 女のごとば小史
- 第二章 江戸時代、女ごとはの世界
- 第三章 吉原と遊女ごとは
- 第四章 現代、女ごとはの展開
- 第五章 近代日本語の中の女の名

第部 近代学術用語と新文体の創始

- 第一章 近代日本語と洋学
- 第二章 十九世紀 外国語学習と翻訳の世界
- 第三章 近代、日・中科学用語交渉史序説
- 第四章 近代語の標準
- 第五章 欧文翻訳文体・思想とその史的変遷

付 Women's Language in Japan

第三巻 日本語研究の歴史

- 日本語研究に先鞭をつけた和漢洋の碩学たちの足跡

僧契沖、新井白石、荻生徂徠、富士谷成章、本居宣長、中野柳圃らをととりあげ、国学・漢学・蘭学の各分野から試みられた日本語へのアプローチを総合的に考察する。

- 第一章 古典研究と歴史的仮字遣いの発見
- 第二章 僧契沖と上代語の研究
- 第三章 日本語と言語文化の探求
- 第三章 古文辞学派と言語の学習・研究
- 第四章 荻生徂徠と中国語の新学習法
- 第四章 日本語の構造・分類の研究
- 第五章 富士谷成章と日本語の宇宙
- 第六章 日本語の本質と語法の探求
- 第六章 本居宣長と日本語学の開拓
- 第七章 異文化摂取と対照言語研究
- 第七章 中野柳圃と蘭語学の樹立
- 第八章 江戸時代の翻訳論
- 第八章 国語学と蘭語学の交渉
- 第九章 江戸時代外国語の受容とその思想

付録

『西音発微』（影印）

第四巻 増訂 日本翻訳語史の研究

- 江戸期 鎖国下で洋学を支えた蘭語学の実態とその成果

文典・辞典の訳編や整備、訳語の創成、さらには背景をなす西欧文化の理解など、洋学の土台をなす江戸期の蘭語学の成果を、細密に分析、検証する。

序論 十六〜十九世紀、翻訳文化の背景

第部 翻訳の方法と史的展望

- 第一章 オランダ語の学習と翻訳
- 第二章 長崎通詞と翻訳

- 第三章 蘭日対訳辞典 ドゥーフ・ハルマの成立と流伝
- 第四章 近代翻訳語の成立と展開

第部 訳語・訳詩の背景と条件

- 第一章 本邦初訳。眼科新書。翻訳の事情
- 第二章 西欧詩歌の翻訳・創作と新体詩の源流
- 第三章 鎖国と西欧ヒューマニズムの発見
- 第四章 人称の発見ととまどい
- 第五章 ケルキの鼠とヨーロッパ精神
- 第六章 ヨーロッパ文学。漂流紀事。の翻訳
- 第七章 鎖国と詩歌・訳詩への断想
- 第八章 蘭学事始 とその問題点

第部 西欧文化・科学の摂取と人的要素

- 第一章 医聖ヒツボクラテス・ソクラテスと秘伝書
- 第二章 中野柳圃と翻訳・蘭語の研究
- 第三章 大槻玄沢と戯作『医者あき人』
- 第四章 適塾の人間教育と明治啓蒙思想の原点
- 第五章 『医戒』の翻訳と医の倫理
- 第六章 橋本左内と外国語の学習
- 第七章 明治における洋学と漢字

増補 訳語の起源を検証

余論 オランダにおける日本学の伝統と史的展開

付録

- オランダ国立民族学博物館（ライデン市）所蔵 日本書仮目録

第五巻 日本文学史の研究

- 日本語の文字使用の歴史と、異体字・宛字の論

古代より現代に至る文字使用の実態をつぶさに検証、とりわけ異体字や宛字の問題を正面より取り上げ、新しい日本文学史の構想を提唱するとともに、現代日本語の抱える表記上の問題点を浮き彫りにする。

- 第一章 日本の漢字 とその本質
- 反ソニール文字論への試み
- 第二章 文字史の構想
- 第三章 漢字周辺文字としての仮字
- 第四章 片仮字の本質
- 第五章 異体字と正体字の論
- 第六章 異体字と異体字研究
- 第七章 異体字とその史的考察
- 第八章 中世写本にみる異体字・俗字の考察
- 第九章 宛字の論
- 第十章 句読法の史的考察
- 第十一章 日本語、文字と表記

付録

『干祿字書』（影印）

『同文通考』 巻四（影印）

『文芸類纂』 平仮字・片仮字字源一覧表

（影印）

『文教温故』 卷之下・文字（翻刻） ほか

第六巻 辞書・事典の研究

- 日本の古辞書、唐話漢語字書、異体字字典の研究

『和名抄』『節用集』『下字集』『落葉集』『東雅』『雑字類編』『魁本大字類苑』『異体字弁』『楷行書編』など、中世〜江戸期の日本語辞書に関する論考を集成

- 第一章 日本の辞典・事典の歴史
- 第二章 『和名類聚抄』の一考察
- 第三章 中世の国語辞書、『節用集』の研究
- 第四章 ライデン大学蔵本『落葉集』の考察
- 第五章 『増補下字集』の構成と語彙
- 第六章 語源辞書、『東雅』の研究
- 第七章 近世唐話漢語字書とその考察
- 第八章 江戸期、異体字字典の研究

付録

『下字集』（別板福森本、影印）

『古史徵聞題記』（抄、翻刻）

第七巻 辞書・事典の研究

- 江戸時代の本草書、百科事典、蘭・英和辞書の考察

『物類称呼』『本草綱目啓蒙』『古名録』『和漢三才図会』『訓蒙図彙』『厚生新編』『ドゥーフ・ハルマ』『英和对訳袖珍辞書』など、江戸時代の事典類および外国語辞書に関する論考を集成

- 第一章 本草学と方言・民俗の記録
- 第二章 越谷吾山『物類称呼』とその世界

- 第三章 小野蘭山。本草綱目啓蒙。と方言・民俗の探究

- 第四章 畔田翠山と『古名録』

- 第五章 中村惕斎。訓蒙図彙。の構造

- 第六章 寺島良安。和漢三才図会。の小察

- 第七章 西洋百科事典『厚生新編』の考察

- 第八章 蘭日対訳辞書の研究

- 第九章 『英和对訳袖珍辞書』の研究

- 第十章 中国辞書の日本における受容とその展開

- 辞書・辞典の系譜

第八巻 日本英語文化史の研究

- 蘭学の伝統のもとに花開いた黎明期の日本英語文化の種々相

語彙集、文法書、辞書、学術用語集などの整備の過程をつぶさに検証し、江戸末期以降に顕著な発展を上げた英学の実態を明らかにするとともに、漂流民の活躍などの周辺事情を交え、英語文化の諸相を立体的に解明。

- 序章
- 第一章 日本英学事始と長崎通詞
- 第二章 英文典と英会話集の試編
- 第三章 国家の危機と漂流民

- 第四章 幕末の英学修業と指導者
- 第五章 蘭学の土壌に英学の開花

- 第六章 日本英学創始の苦心と学習書の訳編

- 第七章 文明開化と英和・和英辞書の編集

- 第八章 日本の近代化と学術用語の訳編

- 増補 W・ロブシャイド 英華字典 の検証

日本英語文化史略年表

第九巻 西欧文化受容の諸相

- 幕末の日魯関係、蘭方医の理論と活動
- 近代教育制度の成立過程などの研究

『北槎聞略』『環海異聞』などを通じての江戸期の魯西亜との交流の詳察、牛痘書や榕庵・成卿の著作にみる蘭方医たちの理論と実践の検証、さらに近代教育制度の成立過程などを扱った論考を集成

- 第一章 『北槎聞略』と日魯交渉史
- 付説 十八、九世紀の魯西亜研究

- 第二章 『環海異聞』の成立事情と日魯人物交歓

- 幕末、魯西亜使節の日本人観

- 付説 幕末、遣魯伝習生・市川文吉

- 第三章 E・ジェンナー（応涅槃）種痘書の伝来と『遁花秘訣』

- 第四章 蘭方医と天然痘撲滅

- 第五章 『遠西独度涅烏斯草木譜』の翻訳と出版事情

- 第七章 医化学者、宇田川榕庵と化学の導入

- 資料：宇田川榕自叙年譜（翻刻）

- 第八章 西欧医学思想の受容と展開

- 第九章 幕末、長崎と蘭医と近代教育

付録

『翻訳牛痘引法全書』（抄録、影印）

第十巻 西洋人の日本語研究

総索引・総目次

- もつひとつの、外からみた日本語研究の系譜

ロドリゲス、ゴシケウツチ、 Hoffman、P ラウン、ヘボン、オルコック、アストン、チャンブレンなど、独自の方法で日本語に挑んだ西洋人たちの研究成果をめぐる論考を集成、十六〜十九世紀の西洋人による日本語研究史の全容を明らかにする。

- 第一章 外国人と日本語研究
- 第二章 吉利支丹と日本語研究
- 第三章 魯西亜と日本語研究
- 第四章 和蘭人と日本語学
- 資料：C・P・ツウンベリ 日本語語彙集
- 第五章 J・J・ホフマンと日本語学
- 第六章 十九ヨーロッパの東洋学者と日本語学
- 第七章 幕末、来日宣教師と日本語研究
- 第八章 イギリス外交官と日本語の研究
- 第九章 明治維新以後、日本語学と国語学

西洋人の日本語研究 略年表

- （別冊）総索引・総目次